

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.5〉

<東岐波① 特徴>

宇部市の最東部に位置する東岐波。一説によると花園、北原、磯地、古殿の二帯が屈曲の激しい海岸で、打ち寄せた波が二つに割れる様子から「岐波」の地名が付けられたという。国道190号が中央を縦断し、その沿線を中心にまち並みを形成。もともとは農業や漁業が盛んな地区だったが、近年は耕作している田畑が減り、ベッドタウンとして住宅地が増加している。

日の山の麓にビーチや遺跡



広がる干潟を見下ろす日の山（山口宇部医療センターから）

田畑減り、宅地化進む

1600年の検地により、白松庄岐波村としての歴史が始まった。その後、幕藩体制の庄屋制度が廃止となり、1872年に現在の東岐波、西岐波両地区を範囲とする「岐波村」が誕生。井関村（現山口市阿知須）と合同の花園小が開校されたことから、当時は阿知須とのつながりが深かったことがうかがえる。そ



基本データ

- 面積13.52平方キロ（8位）
- 世帯数5754世帯

- 人口1万2296人（4位）
（男性5812人、女性6484人）
- 高齢化率34.2%
- 小学校児童数556人
※世帯数などは2022年4月1日現在

の後、79年に村を東西に分け、現在の形となった。89年の町村制施行で吉敷郡東岐波村へ。1954年10月1日に宇部市に編入合併した。

阿知須との境には、小学校の校歌にも歌われる日の山がそびえる。標高は146mで、その山容から「象山」の愛称で親しまれている。600年代は新羅国（今の朝鮮半島）からの国土防衛のため、のろしを上げ、山陽小野田市にある竜王山から山口市秋穂の筈倉山（以前は日地山）へと伝える通信合図所として活用されていた。のろし場としての役割は江戸時代末期（1850〜68年）まで続き、火の神を祭った焼火（たぐひ）神社がある山頂には、毎年多くの住民が初日の出を見に訪れる。

麓にある海水浴場は、地中海のリゾートをイメージした通年型レジャー施設「キワ・ラ・ビーチ」として96年にリニューアルした。歴史の深さを物語る史跡が、地区全体に残されているのも特徴。同ビーチ周辺には、約6000年前の集石遺構、3000〜4000年前の住居跡や矢尻など縄文時代に海浜集落だった形跡が残る「月崎縄文遺跡」、古墳時代後期に造られたとされる横穴式石室「若宮古墳群」がある。毎年、海開き前後になると、地域の歴史を研究し続ける東岐波郷土誌研究会（森昌幸会長）の会員が、草刈りなどの清掃を行い、身近な歴史に触れてもらえるよう努めている。